

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

タンザニア連合共和国 ゴロワ地域開発プログラム(TZA-183548)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



「ゴロワはこんな場所になってほしい!」地域の将来に向けて、子どもたちの視点からも意見が出され、計画に反映されました

過去5年間の活動を振り返り、今後に向けた計画作りを行いました

ゴロワ地域開発プログラム(以下、ADP)は、今年度で活動の第1期(5年間)が終わり、これまでの活動の評価と次の5年間(第2期)に向けた計画作りを行いました。評価の結果によると、初等教育の就学率と出席率、各種予防接種の接種率、マラリア予防のための蚊帳の使用率などが大きく改善したことが分かりました。同時に、教育を受ける機会は増えたものの質は低いこと、慢性的な栄養不良を抱えた子どもたちが未だに多いこと、出生登録証明書を持つ子どもたちが極端に低いことなどの課題も明らかになりました。ADPでは、地域の子ども、大人、農民、医療従事者、教育関係者、行政担当官など様々な人々と評価結果を共有し、彼らとともに第2期の5年間の計画作りを行いました。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサー様

私たちのコミュニティに対する日ごろからのご支援に心から感謝申し上げます。皆さまの人生に祝福がありますようにと願っています。いただいたご支援は、ゴロワ地域とご支援いただいているチャイルドの生活に大きな変化をもたらしました。農業、教育、保健衛生、HIV/エイズ対策の分野でどのような変化があったかを、ここにご報告いたします。

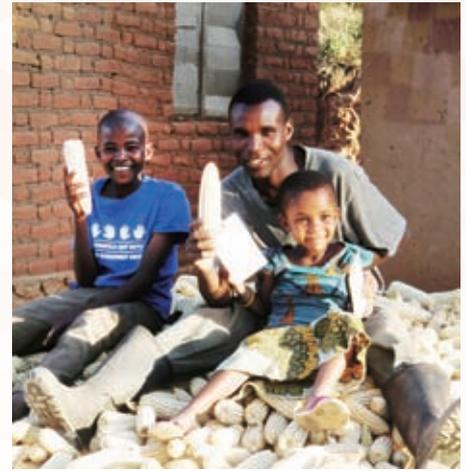
エスター・ムシェンドゥワ(ゴロワADPマネージャー)



農業プロジェクト

評価報告書によると、この5年間の活動でゴロワ地域の多くの農家で、トウモロコシの1エーカー当たりの収穫量が、平均して5-8袋(2008年)から15-25袋(2013年)まで増えました(1袋で約100kg)。ワールド・ビジョンは、ゴロワ地域に配属されている政府の農業技術者と協力し、トウモロコシ農家への技術指導(品質の良い種子を適切な間隔を空けて蒔く、有機堆肥の使用、雑草処理など)を行ってきましたが、その成果が確実に見られています。

また、ADPでは地域内で最も経済的に恵まれない家庭を選び、牛の改良種を支援してきました。固有種では牛1頭1日当たり1-2リットルしか搾乳できなかったのに対し、改良種では1日当たり11-15リットルを搾乳できるようになりました。得られた牛乳は家庭で消費され、子どもたちの栄養改善に寄与するだけでなく、余った分を市場で販売することで現金収入源にもなっています。



ジョセフさん(写真中央)と2人の子どもたち。ADPの支援をによりトウモロコシの収穫量(1エーカー当たり)が12袋から20袋にまで増えました



ゴロワ地域周辺で一般的に飼育されている在来種。背中のコブが特徴的です



ゴロワADPが支援した改良種から搾乳する住民

変革を促した住民の声

「ワールド・ビジョンから農業生産性と収穫物の付加価値を向上させるための知識を得、私たちは今では食物を貯蔵し、高価格で売ることができるようになりました。私たちは農産物から得た現金収入によって、子どもの学用品を購入し、学費を払い、栄養改善のため食生活を変え、子どもの医療費も支払うことができるようになりました」とクルワさんは語ります。

クルワさん(写真左から3人目)と彼が所属するトウモロコシ農家生産者グループのメンバー



教育プロジェクト

過去5年間の活動の結果、教育分野では確実な前進が見られました。評価報告書によると、初等教育への入学率は82.0%(2013年)となり、活動開始時には65.9%(2009年)でしかなかったことを考えると非常に大きな成果を上げることができました。また、ゴロワADP内で、家庭や本人の事情で中途退学する子どもたちの数も年々減ってきており、2008年には114人であったのが、2012年には46人にまで減少しました。さらに、机1台あたりの生徒数も2012年度は7人だったのが、2013年度は4人にまで減少しています。今ではほとんどの学校で良好な学習環境が整っており、教師と子どもたちは授業により積極的に参加したいと思うようになりました。親を含む地域住民の多くが教育の重要性をよりよく認識しており、子どもたちが学校に通うことを奨励し、学校にとって必要な物を購入する際にも協力的です。これは以前には見られなかったことです。



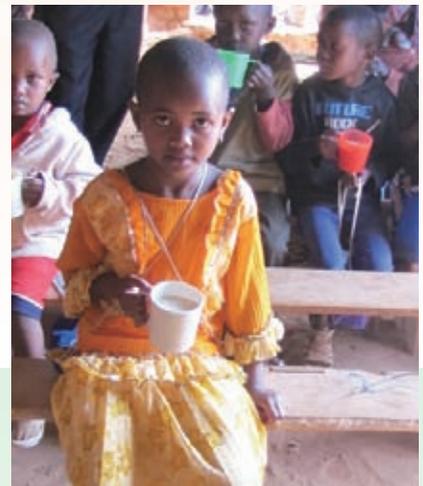
教育分野における活動の評価報告会を住民に対して実施しました。過去5年間の成果を祝い、今後に向けた教訓を共有しました

保健衛生プロジェクト

今年度も地域の保健医療機関と協力し、ゴロワADP内の奥まった地域に巡回診療・予防接種のサービスを提供しました。この結果、2,314人の妊産婦が産前、産後の健診または破傷風トキソイドの予防接種を受け、547人の乳児もポリオ、BCG、破傷風、百日咳、ジフテリア、はしかの予防接種を受けることができました。

ゴロワ地域内の栄養不良児も確実に減ってきています。慢性栄養不良児の割合は43.8%(2009年)から33.7%(2013年)に、そして急性栄養失調児の割合は11.0%(2009年)から3.9%(2013年)になりました。改善は見られるものの慢性栄養不良児の割合はまだ高く、第2期の活動でもより一層力を入れて取り組まなければならない課題です。

また、ADPは地域住民に対して、母乳育児や栄養素に関する基礎知識の普及や、地元で入手可能な食材を使って栄養に配慮した食事を調理する方法について指導を行っています。



地域の保育園で栄養価の高いおかゆを提供された子ども。おかゆは牛乳、トウモロコシ粉、ピーナッツ、豆、砂糖などを使って調理されています

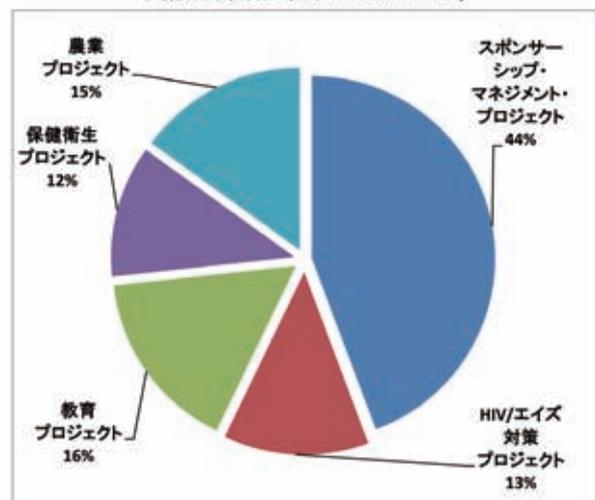
会計報告

収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	TZA-183548 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	38,244,954
当期支援額	38,244,954
前期繰越金	-670,502
プログラム支援額合計	37,574,452
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,639,858
HIV/エイズ対策プロジェクト	4,812,855
教育プロジェクト	6,063,196
保健衛生プロジェクト	4,385,949
農業プロジェクト	5,646,122
プログラム支出額合計	37,547,980
次期繰越額	26,472

支援分野別内訳(TZA-183548)



HIV/エイズ対策プロジェクト

ゴロワ地域で暮らす56人のHIV/エイズとともに生きる人々(PLWHA)が、4つの自助グループに分かれて活動しています(各グループ約15人)。彼らは月例会を持ち、その場でお互いを励ましあったり、カウンセリングを受けたりしています。同じような境遇にある者同士だからこそ分かる痛みや悲しみがあり、力を合わせてPLWHAへの支援の必要を訴えることもできます。一例として、2013年1月に、彼らはゴロワ郡に対してHIV/エイズで親を失った6人の子どものための学費を免除するよう訴え、郡からの支援をとりつけることに成功しました。

「ウモジャ」(スワヒリ語で「希望」という意味)という名のグループのメンバーであるサラホさんは語ります。「1999年ごろ、地域の人たちは私たちPLWHAに対してあいさつも握手もしてくれなかったし、一緒に食事をしたり、床屋に行ったりすることなんてもってのほかでした。少しずつそういった差別はなくなってきたと実感しています。こうしてPLWHA同士で集まることができるのは大きな喜びです」

※今回、サラホさん、ヨナさんのお話を報告書で取り上げること、また写真を使わせていただくことに関して、ご本人やご家族から事前に許可を得ております



サラホさん(左)と奥様のエリザベスさん。サラホさんはかつてタンザニアを代表して国際大会にも出場するマラソン選手でした。エリザベスさんは「ウモジャ」のリーダーを務めています



ヨナさん(写真中央、青いシャツの男性)と家族。ADPからヤギや鶏の支援、そしてトウモロコシの栽培法に関する研修を受けました。ヨナさん自身はHIV陽性者ですが、PLWHAに参加し、仲間と励まし合いながら家族のために働いています

スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその



ゴロワADP事務所で開かれる四半期毎の「子ども議会」に参加する子どもたち

家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

地域で開催される「子ども議会」では、教育を受ける権利、医療を受ける権利、虐待や児童労働から守られる権利、自分の意見を言い表す権利など、様々な子どもの権利の中で何が脅かされているのかを議論し、ADPとともに行政や地域の指導者、親たちに対して働きかけています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

タンザニア連合共和国 ムゲラ地域開発プログラム(TZA-183537)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



これからの5年間の課題や活動について話し合う住民たち。地域住民の意見が反映された活動を行えるよう、話し合いも住民が中心となって進めました

地域住民とともに次の5年間に向けた計画作りを行いました

ムゲラ地域開発プログラム(以下、ADP)は、2013年度で活動の最初の5年間が終わり、これまでの活動の評価と次の5年間に向けた計画作りを行いました。現地のコンサルタントにより実施された評価の結果によると、初等教育の就学率が5年前に比べ約30%向上(57%から86%)したことが分かりました。また、基本的な予防接種を済ませた2歳以下の子どもの割合は、5年前の23.4%に対し、60.6%まで向上しました。

これらの成果が確認されたものの、教育の質や栄養不良の問題のほか、HIV/エイズ予防に関する知識の普及が十分でないこと、出生登録証明書を持つ子どもの割合が非常に低いこと等の課題が残されています。地域住民が地域の課題に自分たちの力で立ち向かっていけるようになることを目指し、次の5年間も効果的な支援を届けられるよう活動を進めていきます。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

スポンサーの皆さま

ムゲラ地域よりご挨拶申し上げます。子どもたちと地域の人々への皆さまの温かいご支援に、このようにお礼を申し上げることができ、嬉しく思います。地域の人々は、生活が改善されていること、そしてご支援くださる皆さまの存在に励まされ、これからの活動にも期待をしています。心からの感謝とともに、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



ADPマネージャー(写真左)と子どもたち
ゼバダイア・マアンガ(ムゲラADPマネージャー)

農業プロジェクト

農家の食料生産に関する知識と技術を向上し、各家庭の収穫高を増やすための活動を行いました。支援地域内では品質の良い種子しか手に入らず、収穫高向上が難しかったため、今年度はタンザニア政府が認定する品質の良いトウモロコシの種子を農家に支給しました。ムクリアさんは、支援を受け1エーカー当たり20袋(約2,000kg)のトウモロコシを収穫できるようになりました。今では、ほかの農家から栽培に関する質問に答えたり、助言もできるようになりました。



支援により収穫高が向上したムクリアさん。彼が育てたトウモロコシ畑です



支援された改良型の種子で栽培、収穫したトウモロコシの山

教育プロジェクト

教育プロジェクトでは前年度に引き続き、子どもたちが質の高い教育を受けられように、870冊の教科書を7カ所の小学校に支給しました。これにより生徒対教科書の比率は、以前の8人に1冊から4人に1冊になりました。また、机も158台を支援した結果、机に座れる生徒の数は1,812人から2,287人に増えました。初等教育の修了試験の前には、地域内の33校で模擬試験を実施しました。模擬試験は修了試験対策として大変役立ち、多くの子どもたちが修了試験に合格しています。さらに、33人の教師に対して、英語、算数、理科の教授法に関する研修も実施しました。これらの支援が今後さらに実を結び、一人でも多くの子どもたちが中等教育、高等教育へと進むことができればと願っています。



支援地域内の小学校における、教科書の贈呈式の様子



机の支援を受けた小学校

制服の支援を受けた子どもたち。地域内で最も弱い立場に置かれている、障がいを抱えたり、親を失った子どもたち240人に制服を支援しました。自分の制服を持つことができ、子どもたちは喜んで学校に通っています

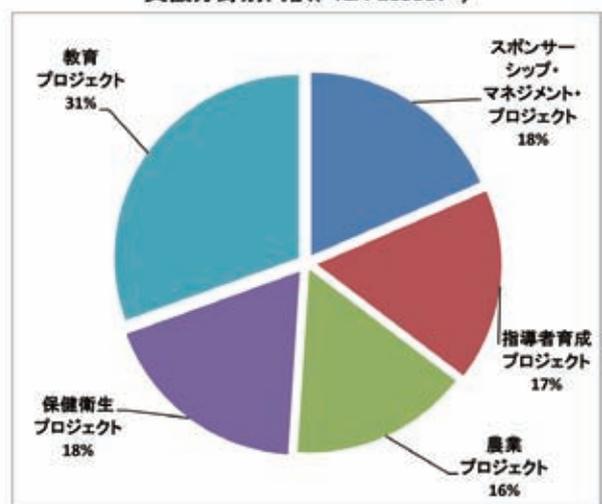
会計報告

収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	TZA-183537 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	25,761,755
当期支援額	25,761,755
前期繰越金	4,982,999
プログラム支援額合計	30,744,754
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	5,696,348
指導者育成プロジェクト	5,229,327
農業プロジェクト	4,820,069
保健衛生プロジェクト	5,694,404
教育プロジェクト	9,426,332
プログラム支出額合計	30,866,480
次期繰越額	-121,726

支援分野別内訳(TZA-183537)



保健衛生プロジェクト

ムゲラ地域が属する行政区分である母子保健プロジェクトと協力し、母親たちに栄養に関する基礎的な知識や子どもの食事に関する研修を行いました。研修を通じて母親たちは、自分たちの地域で手に入る材料で、子どもたちに栄養のある食事を作れるようになりました。「地域内でも栄養のある食材があったのに、私たちはその価値をわかっていなかったのです」と研修で学んだ母親たちは話します。今後、子どもたちの栄養状態が改善されることが期待されています。

栄養価の高い食事の作り方の研修の様子



指導者育成プロジェクト

指導者育成プロジェクトの目的は、地域住民に対する指導者たちの責任を明確化し、透明性を確保することです。地域内14の村々からそれぞれの村の指導者が集まり、村をどのようにして統治していくか、説明責任とは何かについて学びました。この研修で学んだ内容を指導者たちが実践することで、村の住民たちは集会や報告書を通して、村の収入や支出について知ることができ、不明な点については詳細を問い合わせ、不正に関しては指導者たちの責任を問うことができるようになることを目指しています。



研修に参加する指導者たち

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援



活動の中心を担っていくような啓発活動も行っていきます。一例として、今年度は、子どもたちが集まり、自分たちの生活に影響をおよぼしている児童労働について考える時をもち、それぞれが意見を話し合いました。その後、子どもたちは「アフリカ子どもの日」(毎年6月16日)の記念式典で、話し合った問題と自分たちの意見について発表しました。

「アフリカ子どもの日」の記念式典には、政府の指導者が来賓として招かれ、子どもたちの意見に耳を傾けました

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

タンザニア連合共和国 ムキンガ地域開発プログラム(TZA-192736)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



支援地域の子どもたち。
子どもたちの笑顔が絶えな
い地域を目指しています

「アフリカ子どもの日」(毎年6月)のお祝いの様子。
イスラム教徒が多い地域のため頭にスカーフを巻い
ている女の子が多くなります



ムキンガの未来を築くパートナーとして

ムキンガ地域開発プログラム(以下、ADP)は、3年目の活動を無事に終えることができました。ADPの活動地であるムキンガ郡は、ADPの開始とほぼ同時に設置されたタンザニア国内でも新しい郡であり、郡の行政官たちはムキンガADPを郡の将来を切り拓くためのとても大切なパートナーとして捉えています。また、ワールド・ビジョンはこの地域に事務所を構えて、長期的に活動をする唯一のNGOでもあるため、その存在は郡事務所の行政官だけでなく、地域住民にも広く受け入れられ、喜ばれています。これからも地域の人々とともにムキンガADP、そしてワールド・ビジョンは歩んでいきます。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

スポンサーの皆さま

ムキンガ地域の子どもたちのために継続的なご支援をいただき、心から感謝申し上げます。皆さまからの温かいご支援は、ムキンガ地域の未来を支える子どもたちやその次の世代のために、大きな成果を残しています。皆さまのご支援がどのような実を結んでいるかを本報告書でご覧いただければと思います。あらためまして感謝申し上げるとともに、皆さまの健康と豊かな人生をお祈りいたします。

ジャフェット・ワンウェ（ムキンガADPマネージャー）



保健プロジェクト

ムキンガ郡はケニアと国境を接していますが、今年度は国境近くの村に初めての診療所を建設しました。現地ではマラリアの症例が多く見受けられますが、近くに医療施設がないため治療開始が遅れ重症になり、死に至るケースも残念ながら少なくありません。この診療所がなかったころ、人々は隣村の診療所を訪れたり、わざわざ国境を越えてケニアの診療所まで足を運んだりしていました。分娩時にも遠く離れた医療施設まで移動することができず、結果的に安全な環境や方法で出産ができないという問題も抱えていました。新しく建設された診療所内には分娩台や検査台も整えられ、安全な分娩に向けた体制が整えられています。

ムキンガ郡のように医療施設の数少なく、住民の

利用も限られている農村地域では、村落保健員が^{※1}非常に大きな役割を担っています。今年度は56人の村落保健員に自転車を提供し、彼らがより多くの家庭を訪問できるよう支援しました。また、これら村落保健員に対して、5歳未満児の予防接種、栄養補助、駆虫がいかに大切かを教える研修を実施しました。村落保健員が研修で学んだことを実際に適用し、村々の中で啓発活動を実施したことにより、今年度、ムキンガ郡全体でビタミンA補助剤と^{※2}駆虫薬を投与された子どもたちの数は目標の5,600人を超える6,211人に達しました。

※1:住民に対する保健啓発活動や、村落内で病気や怪我などの患者を発見した際に、医療施設への照会を行います。

※2:ビタミンA不足は、開発途上国では未だに大きな問題です。ビタミンAが不足すると、免疫低下、夜盲症、ひどい場合は失明も引き起こされます。



ケニアとの国境近くの村に建設された診療所



ビタミンA補助剤を地域の子どもに投与している様子

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

教育プロジェクト

教育プロジェクトでは、地域内の小学校に対して612冊の教科書を支援しました。多くの小学校では教科書が足りず、1冊の教科書を4~5人の生徒と一緒に使うことも珍しくありません。少しでも少ない人数で1冊の教科書を読めるように、この支援を行っています。また、1つの小学校で2教室を増設し、机やイスも支援したことで1教室あたり60-90人だった生徒数が、平均して45人に収まるようになりました(タンザニア教育省の基準は1教室45人が望ましいと規定)。ほかの小学校でも老朽化した2教室を修繕し、トイレも建設しています。これらの支援の成果もあり、ムキンガ郡で2013年度に小学校へ入学した生徒の数は1,392人となり、前年度の1,212人を上回る結果となりました。

子どもたちを取り巻く問題は学校設備だけではありません。ほかにも早婚、児童虐待、児童労働などの問題について、ADPは学校運営委員会、教師、村の指導者、住民などに幅広く啓発活動を行い、子どもの権利(教育や保健サービスを受ける権利、虐待や搾取から守られる権利、表現の自由など)が遵守されるようにも働きかけています。



ADPから支援された教科書を手にする教師たち



壁がまぶしいほど白く新しい教室の中で、新しい机とイスに座って学ぶ子どもたち

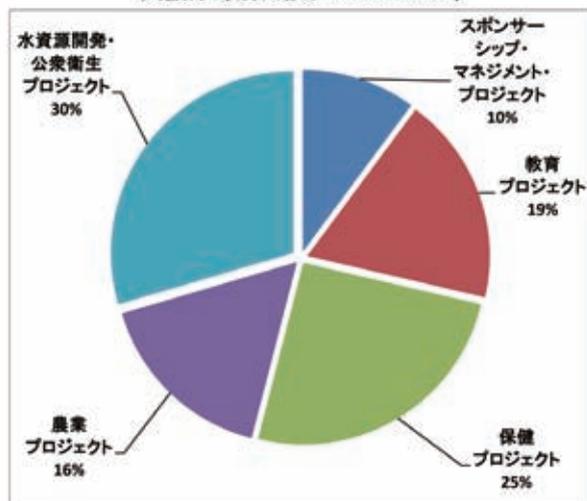
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

TZA-192736 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	50,070,786
当期支援額	50,070,786
前期繰越金	1,928,818
プログラム支援額合計	51,999,604
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	4,990,080
教育プロジェクト	9,156,277
保健プロジェクト	12,499,327
農業プロジェクト	8,111,861
水資源開発・公衆衛生プロジェクト	14,591,191
プログラム支出額合計	49,348,736
次期繰越額	2,650,868

支援分野別内訳(TZA-192736)



農業プロジェクト

支援地域内では、農業や家畜飼育を通じて生計向上を図るグループがいくつもあります。ADPはそのような生計向上グループの組織化を促したり、既存のグループに対して郡の農業技術者と協力して、指導を行っています。今年度は56人の農家に対して、栽培技術の指導、病害の予防や対処方法に関する研修を行いました。グループのうち一つ「アジミオ」（スワヒリ語で「合意」という意）は、彼ら自身が自主的に立ち上げたグループで、ADPは彼らからの要請に基づき、農業技術の指導やオクラ、なす、きゅうりといった作物の種子を提供しました。農作物の栽培技術や販路の拡大にも徐々に成功し始めており、今年度は数年前に比べて10倍の収入を得ることができました。得られた利益の半分は、今後の活動やメンバーの中で急にお金が必要になった際に貸し出すため、グループで貯金しています。

このほかにも、養鶏グループに対しては、644羽の鶏（改良種）が支援され、自家消費して子どもの栄養摂取に役立てたり、卵を販売して家庭の収入を向上させたりしています。



農業研修を受けた「アジミオ」のグループメンバー



養鶏グループのメンバーの子どもたちも鶏の支援を受けて喜んでいます

水資源開発・公衆衛生プロジェクト

地域内の小学校3校と1つの保健センターに対して、雨水を貯めるためのタンクが設置されました。水道が十分に整備されていないムキング郡の、子どもたちは、朝水汲みをして、その日に学校で使う水を持参しています。このことが原因で遅刻をしたり、授業を欠席せざるを得ない子どもが少なくありません。また、医療施設でも水道が通っていないことが多く治療の際に使用する水を患者自身が持参しなければならないという大変な状況があります。

また、地域内の村で長期間故障していた水の汲み上げ用ポンプやパイプラインの修繕を行い、2,800人を超える村人が再び安全な水を得ることができるようになりました。村には給水所が4カ所設置され、村人はここから水を汲むたびに少額を支払い、水管理委員会が水の使用料金を徴収し、運用することになっています。以前は水管理委員会が健全に



汲み上げ用ポンプとパイプラインが修繕され、再びきれいな水を使えるようになりました。村にきれいな水が戻ってきました

機能しておらず、ポンプやパイプラインが故障した際にも適切なメンテナンスを行うことができませんでした。今回、ADPは単に設備の修繕を支援するのではなく、水管理委員会に対して組織の運営方法に関する研修に力を入れ、管理委員会の月例会のほかに四半期ごとに村人を含めた集会を開き、そこで収支の状況についても村人に報告することにしました。ADPがこの地を去る際には、住民が自分たちの力で水道設備の維持管理や委員会の運営を十分に行えることを目指しています。また、修繕や設備の拡充の

ために新たな資金が必要な際には、地方行政にしっかりとした要望書を提出し、支援を受けられるよう力をつけてもらうことも必要です。今後もADPは委員会のメンバーをはじめとする住民の能力強化を図っていきます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

タンザニア連合共和国 シンゲレンゲレ拡大地域開発プログラム(TZA-170433)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

過去5年間を振り返り、 いよいよラストスパートです



シンゲレンゲレ地域内の小学生。みんな元気いっぱいに笑顔で学校に通っています

シンゲレンゲレ拡大地域開発プログラム(以下、ADP)は、2015年度をもって活動を終了する予定です。今年度は、過去5年間の活動を評価し、最後の2年間にに向けた計画作りを行いました。評価の結果によると、農業分野では品質の良い種子、堆肥や有機肥料などの使用により農業生産性が高まり、家庭での食糧確保が進んだことが分かっています。また、地域内の多くの学校で生徒の入学率が上がり、中途退学率は減少しています。井戸の掘削や給水システムの整備により、安全な水を確保できる家庭も増えています。ADPが去った後も子どもたちがより良く学び、より健康に暮らし、家族や地域の人々に愛され、守られているという実感を持って成長してほしいと願います。そのために、最後の2年間では、村々で結成された女性グループ、貯蓄・融資組合、宗教指導者などの活動を支援し、彼らのグループとしての結束や運営能力(収入創出活動や会計能力)を強化していきます。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

ンゲレンゲレのコミュニティと人々を代表して、スポンサーの皆さまのご支援に感謝申し上げます。皆さまからいただいたご支援は、多くのニーズを抱えた子どもたちの生活を変え、希望を与えてくださっています。皆さまの幸せを祈るとともに、この大切な働きを引き続き支えてくださることを願います。

ピーター・ルウェチュングラ(ンゲレンゲレADPマネージャー)



教育プロジェクト

タンザニアでは初等教育(7年間)の修了試験が実施されますが、評価報告書によると、修了試験の合格率は37.8%(2000年から2006年の記録の平均)であったのが、2013年には50.9%にまで向上してきています。地域内に約90%の非常に高い合格率を誇る小学校もありますが、特にへき地にある小さな小学校ではまだまだ合格率は低い現状にあります。課題はまだ残りますが、確実に教育分野への支援が実を結んでいます。また、25の学校運営委員会に対して、学校の運営費の管理について研修を実施しました。そのほか、各学校で「子ども議会」という活動を実施し、子どもたち自身が自らの権利(教育を受ける権利、保健サービスを受ける権利、差別や虐待、搾取などから守られる権利)について学び、地域内でのような権利が十分に守られていないかを考え、発表するという機会を持っています。

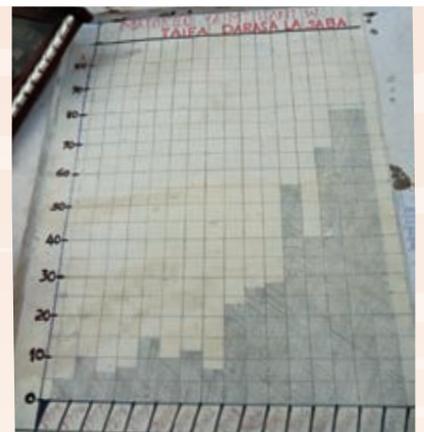


小学校の修了試験に、90%近くの子どもたちが合格している小学校のプロタシア校長。ADPの支援が始まって以来、この学校の成績がどのように向上してきたかについて語ってくれました



ADPでは、教師が生徒に一方的に教えるのではなく、生徒に積極的に意見を発表してもらったり、子どもたち自身の間で協力して考えたりという参加型の教授法を進めています

プロタシア校長が見せてくれた小学校の初等教育修了試験の結果表。1995年は5%の合格率だったのが、2010年には約80%、2013年は約90%に向上しています



初等教育の質が向上しています

「僕の名前は、ザカリア小学校の4年生です。好きな教科は英語と算数です。ンゲレンゲレADPの人たちは、僕の学校に英語、算数、理科などの教科書を支援してくれました。おかげで、宿題をするために教科書を借りて家に持って帰ることができるようになりました。皆さんと神様に感謝します」

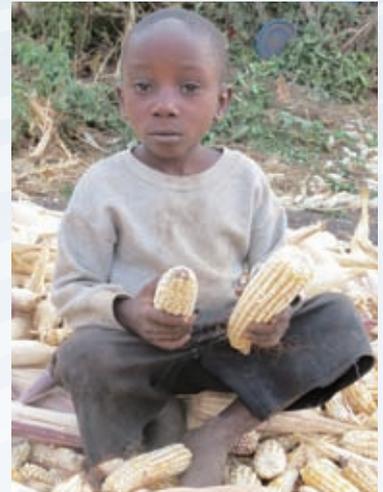
日本では自分の教科書があるのが当たり前ですが、タンザニアの多くの学校では一人一冊教科書を持つというのは、まだまだ夢のような話です。ザカリア君が通う学校では、一冊の教科書を13人の生徒で共有していましたが、今では一冊あたり3人で使えるようになりました。この小学校は今では地域で最も優秀な学校の一つにまで成長しています。



授業中に教科書を音読するザカリア君

農業プロジェクト

近年気候変動の影響からか、タンザニアの多くの地域で、昔に比べて雨が降る期間が短く、また降り方も短時間で激しく降るようになったと農民は言います。ンゲレングレシ地域でも、今年度は雨期に安定した降雨量を確保できませんでしたが、それでもADPが活動を通じて関わってきた農民全体でメイズ、ソルガム（和名：モロコシ）、ヒマワリなど約35万袋（1袋100kg）の農作物を収穫することができました。特に乾燥に比較的強いソルガムとヒマワリ（種から油を精製します）については、近年の不安定な降雨パターンへの対応策として、地方行政の農業局と協力して導入した作物です。そのほか、本プロジェクトでは農民に対して養蜂、家庭菜園（自家消費用に多品種を少量ずつ栽培する菜園）、貯蓄・融資組合といった補助的な活動も勧めています。今年度は300人の農民による11の貯蓄・融資組合が結成されました。組合のメンバーは毎週定期的に集まり、それぞれが組合の口座にお金を貯め、子どもの学費、小規模ビジネス開始の費用、冠婚葬祭などのためにまとまった額が必要になった際、組合から低利で融資を受けています。金融機関は地域からは非常に遠い場所にあるため、このように住民同士で助け合うシステムを作ることが重要です。



食糧が確保されることで子どもたちの栄養状態も改善され、学校の勉強に集中できるようになっています

保健衛生プロジェクト

本プロジェクトでは、特に5歳未満の子どもが一人でも多く生きることができるよう、保健省の基準に沿って、地域内のすべての子どもたちに各種予防接種（BCG、三種混合、はしかなど）を行うことを目指してきました。今年度も地域内21の村々で予防接種の巡回サービスを提供し、2013年現在、地域内の5歳未満児の約82%が予防接種を受けています。これはタンザニアの全国平均値である75%（タンザニア人口保健調査、2010年^{*}）を上回る、大きな成果です。また、5歳未満児を抱える家庭の約94%が就寝時に蚊帳を使用しており、改善が見られています。しかし、未だに5歳未満児の間でマラリアの症例がなくなったわけではありません。このため、今年度も地域の村々に赴き、マラリアの予防や発病した際の対処方法について啓発活動を行うとともに、マラリア原虫を人に媒介するハマダラカの巣を駆除することも推進しています。



予防接種の巡回サービスの際、子どもたちの身長と体重も測定し、成長を確認しています

^{*}国勢調査にあたる人口保健調査は2010年に行われたものが最新のデータです

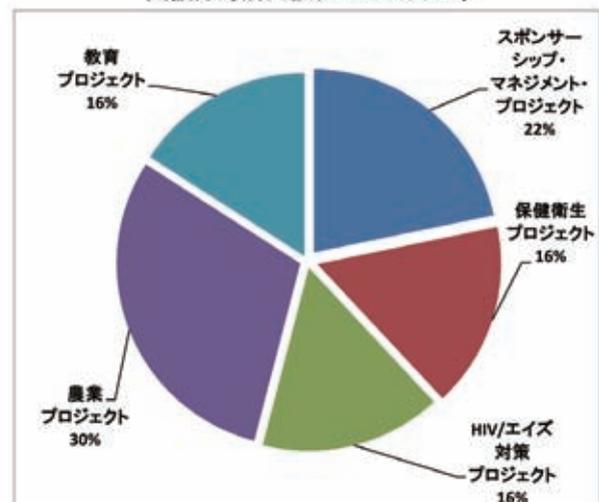
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

TZA-170433 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	23,570,965
当期支援額	23,570,965
前期繰越金	297,203
プログラム支援額合計	23,868,168
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	5,649,087
保健衛生プロジェクト	4,242,708
HIV/エイズ対策プロジェクト	4,146,865
農業プロジェクト	7,808,541
教育プロジェクト	4,131,937
プログラム支出額合計	25,979,138
次期繰越額	-2,110,970

支援分野別内訳(TZA-170433)



HIV/エイズ対策プロジェクト

ングレングレ地域の一部では、タンザニアで最も大きな都市であるダルエスサラームから延びる幹線道路が通っており、人と物の動きが活発です。タンザニア陸軍の訓練所もあります。これらが要因となり、HIV/エイズの蔓延率が国内でも比較的高い地域でした。長年の活動の結果、住民の間ではHIVへの感染予防についての知識や意識は高まってきており、以前に比べHIV検査を受ける人々の数も増えています。住民への啓発活動を進めるにあたっては、キリスト教の牧師やイスラム教の指導者といった、地域内の宗教指導者と協力することが大変重要です。人々の間で大きな影響力を持つ彼らの口からこの問題について語ってもらうことで、より多くの方々に正しい知識を広めることができます。



親を失った20人の子どもたちに、学用品を支援する貯蓄・融資組合のメンバーたち

今年度は38人の宗教指導者に対してHIV/エイズ予防に関する研修を行いました。

また、村々で結成されている貯蓄・融資組合は、HIV/エイズで親を亡くした子どもたちに対する支援を自主的に始めています。支援を受けた子どもの一人であるハリマちゃん(小学5年生)の声をお聞きください。

「私はノートを1冊しか持っていなかったのですが、すべての教科についてこの1冊のノートで勉強をしていました。でも、貯蓄・融資組合の人たちが、10冊のノートと2本のペンを私にプレゼントしてくれました。これでそれぞれの教科ごとに1冊ずつノートが使えるようになり、残ったノートで宿題をすることだってできます!アサンテ(ありがとう)」

スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



スポンサーから届いた折鶴とクリスマスカードを見せてくれたングレングレ地域のチャイルド

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 FAX : 03-5334-5359

e-mail : dservice@worldvision.or.jp ホームページ : www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。